

(34)トキ(朱鷺)のブランド米

新緑の 5 月、新潟県の佐渡市に出かけた。佐渡は、高速船ジェットフィルで新潟市から約 1 時間の離島である。金銀山、歴史、伝統芸能(能舞台は 30 を超える)等の地域資源が豊かな佐渡は、今日、トキ(朱鷺)の郷として人々に親しまれている。

かつては日本各地に舞っていたトキは、乱獲、生息環境の悪化、餌の減少などによって次々に姿を消していった。1971 年に 5 羽に減った後、環境省のトキ保護センターで繁殖を試みたが失敗し、最後に残ったミドリとキンも死んだ。その後、中国からつがいのトキが贈られ、ヒナ”優優”が誕生。2008 年 9 月には 10 羽、09 年には 20 羽が放鳥され、大空に再び舞う姿とともに、今年は自然界でヒナが誕生かと連日マスコミに取り上げられた。しかし、孵化ではカラスに、ゲージ内ではテンに襲われた。人工的に繁殖した時が自然界で生きるのは相当に難しい。

ここ数年、佐渡の人たちはトキと暮らす郷づくりを進め、エサになる小魚、カエル、土壌を育てる地域づくりを始めた。冬の間も田んぼに水を張り(冬水田んぼ)、田んぼのそばに水路(江)を作り、魚道を整備し、棚田を作って、トキが暮らせる自然を再生している。夏には、子どもたちも協力して、田んぼの生き物調査が行われる。

生態系の再生に多数の農家が参加し、有機農業を進めている。こうして作られた佐渡のコシヒカリは「朱鷺と暮らす郷づくり米」として認証され(農薬、化学肥料は 50%以上削減)、ブランド米として人気がある。佐渡で生産される米 2 万トンのうち 1200 トン近くがこのブランド米で、今年度はさらに 2~3 倍ほど増えると予想されている。

トキのブランド米の広がり、消費者が、生物多様性保全に間接的に参加することを意味する。佐渡市全体でも「エコアイランド佐渡」づくりを推進し、新潟大学が研究協力するトキ交流会館ではボランティア活動が行われ、バイオマス推進事業者が間伐材の木くずでトキのデコイ(環境教育などにも利用される、インテリアの模型)を作るなど、環境再生による地域づくりの輪が広がっている。

以上